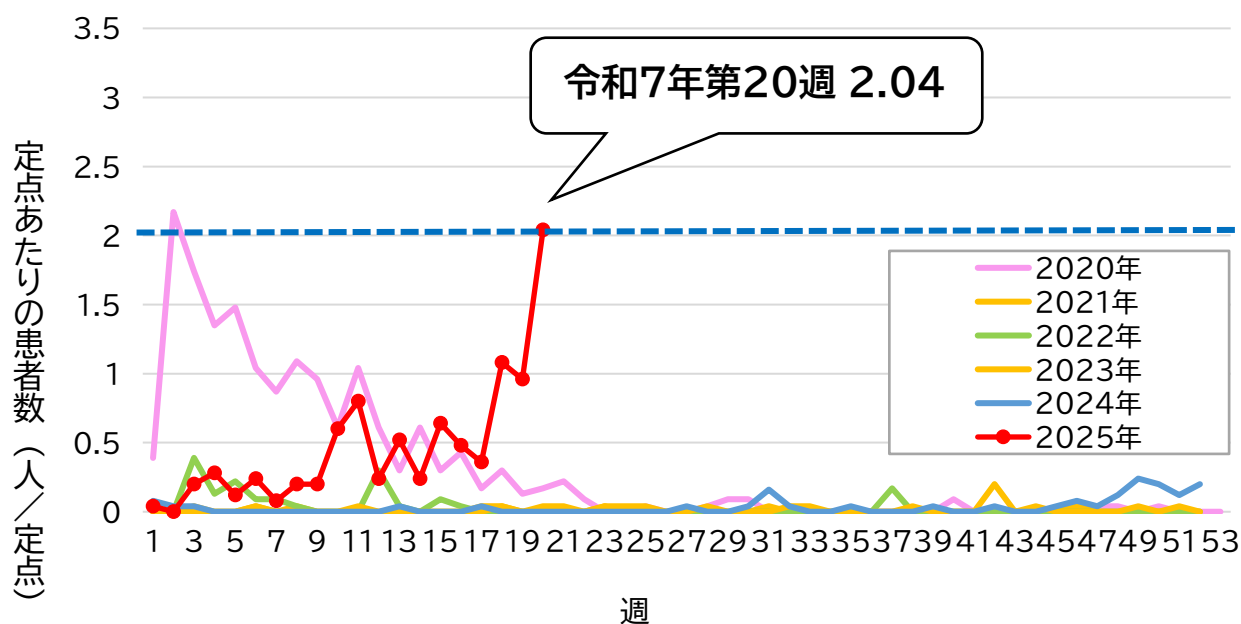


伝染性紅斑(リンゴ病)が流行しています！(注意喚起)

県内における伝染性紅斑の発生状況



伝染性紅斑の概要

- ・伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19 によって発生する感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。
- ・約 10～20 日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消えます。
- ・多くの場合、頬に発しんが出現する7～10 日くらい前に、微熱やかぜのような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。
- ・感染した人の咳のしぶき(飛まつ)を吸い込むことによる感染(飛まつ感染)や、感染者と接触したりすることによる感染(接触感染)が知られています。
- ・伝染性紅斑に特別な治療法はありません。基本的には軽い症状の病気であるため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。

伝染性紅斑の予防と対策

- ・伝染性紅斑を予防するワクチンや薬はありません。
- ・紅斑が出ている時期にはほとんど感染力がないため、かぜ症状のある人はこまめな手洗いや、せきやくしゃみをする時には口と鼻をハンカチ等でおおうなどの「咳エチケット」を心がけることが大切です。